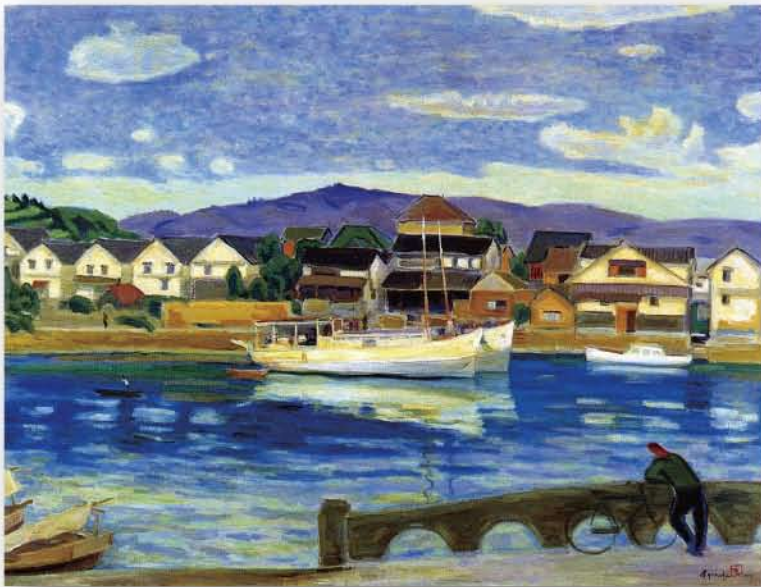


# まなびやのオアシス

## 母校の美術品を訪ねて



母校には、卒業生や御遺族等から書、画、彫刻など二百点を超える作品が寄贈されており、校内各所に展示されています。今回、これらの作品を訪ねてみました。ここに、その一部を紹介します。



(89.8cm×116cm)

### 「備南風景」

柚木 久太 (明治39年卒)

作者の柚木久太は、明治18年倉敷市玉島で、画家・柚木玉郎の長男として生まれました。岡山中学を卒業後に東京、パリで絵画を学び、大正4年帰国後は東京にアトリエを構え、文展、帝展で数々の入選・特選を果たし、帝展委員・審査員などを務めました。

久太は故郷に対する思い入れが強かったのでしょうか、戦後は玉島に戻りました。

玉島港の風景を描いたこの絵は母校の創立80周年の際に寄贈されたものです。海と空の青、船と雲の白、山の緑、鮮やかな色とかすんだ色の使い方、コントラストが見事で爽やかな絵です。穏やかな陽を浴びる船と白壁が目を引き付けます。手前にはさりげなく橋と港を眺める人物が描かれています。この人物は、いつまでもこの風景を見守っていたという久太自身のこの町への想いを表現しているのかもしれない。

【岡文雄 (昭和53年卒)】



展示場所 / 校長室

